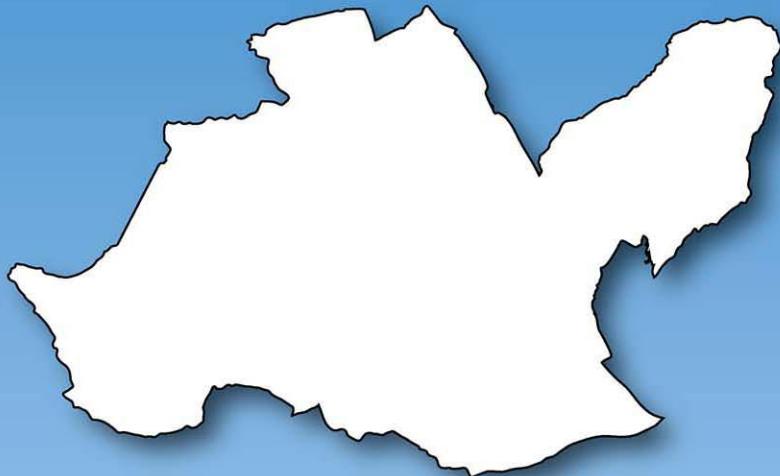


令和元年度版
洪水・土砂災害
ハザードマップ

ハンドブック



い勢崎市



ハザードマップを見てください。 あなたの家は浸水想定区域に入っていますか? 土砂災害警戒区域に入っていますか?

令和元年度版ハザードマップの特徴は、浸水想定区域が大幅に拡大し、今まで安全とされていた地域でも危険が想定されていること、また、いくつかの指定避難所は浸水想定区域に入ってしまい、状況によっては使用できないことがあります。

このような状況では、「避難指示が出たら避難すればいい」等、受け身の姿勢では被害を防ぐことはできません。市外の知人・親類を頼るなど、一人ひとりが自らの避難行動を考え、早めに避難することが必要です。

この小冊子は災害時の行動や情報の入手方法などが記載されています。

自分の命を守るために、大切な人の命を守るために行動を考える際の一助として活用してください。



目次

▶ 茅崎市は災害と無縁な街ではありません.....	P2~3
▶ 災害時の行動に対する考え方.....	P4~5
▶ 大雨により発生する被害とは.....	P6~9
▶ 5段階の警戒レベル.....	P10~11
▶ 情報を入手しましょう.....	P12~13
▶ タイミング別の情報入手先.....	P14~15
▶ 自宅の危険度、避難先を考える.....	P16~17
▶ 地域防災計画に定める指定避難所(洪水・土砂災害).....	P18~19
▶ 避難行動マイタイムライン.....	P20~21
▶ 避難時の心得.....	P22~23
▶ 一日前プロジェクト.....	P24~27
▶ 浸水想定区域(市内全域)抜粋・縮小版.....	P28~29

茅崎市の被災履歴(風水害)

(茅崎市地域防災計画より抜粋)

年代	場所	主な被害
明治31年	1898年 旧茅崎町・円野町	死者41名、流失家屋282戸
大正8年	1919年 旧茅崎町・穴山町	橋りょう流失多数
大正14年	1925年 旧茅崎町	橋りょう流失多数
昭和10年	1935年 旧茅崎町	流失家屋15戸、橋りょう流失多数
昭和34年	1959年 旧茅崎町	死者行方不明者21名、流失家屋59戸
昭和57年	1982年 茅崎市全域	家屋半壊12戸、床上・床下浸水14戸
昭和58年	1983年 茅崎市全域	家屋半壊2戸、床下浸水295戸
昭和60年	1985年 茅崎市全域	床下浸水30戸、農地冠水60ヶ所

昭和34年の災害で浸水した茅崎市(祖母石地区)



④ 芦崎市は災害と無縁な街ではありません ~安全 神話など存在しません~

最近、「数十年に一度の大雨」という言葉を毎年のように耳にします。国内各地で線状降水帯、ゲリラ豪雨や巨大台風により甚大な被害が出ており、これまで被災していない地域だからといってこれからも被災しないということはありません。

今から60年前、芦崎市は台風7号と台風15号（伊勢湾台風）により未曾有の大被害を被り、当時の新聞では「甲府空襲を除く自然災害では空前の損害」と報道されました。

60年前の災害というとついぶん昔のように感じるかもしれません。しかし、過去に大きな水害があったことは事実です。災害と無縁ではないということです。

現在芦崎市では、地区防災計画の提案や地域減災リーダーの育成、特定地区総合防災訓練など、災害に対する意識は決して低くはありませんが、再び大きな被害を出さないためにも、避難のタイミングや避難場所についてもう一度考えてみましょう。



芦崎中学校（当時）は校舎の半分をえぐり取られた。



西町愛生幼稚園。ブランコの下部が埋まっている様子がわかる。



県北巨摩事務所。水防本部も浸水し、本部を市役所へ移転した。



本町の排土作業



市役所庁舎前の石碑

「歴史に学び
自分の命は
自分で守る」

この言葉は何を
意味するのか？

災害は、今後大規模化が予想されます。

大規模化する災害に対し、避難行動や考え方はどう変わるのでしょう？

災害時の行動に対する考え方

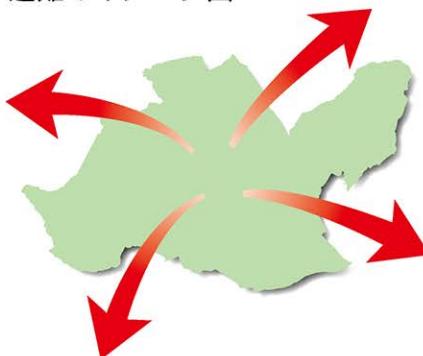
令和元年度版ハザードマップでは、指定避難所のいくつかが浸水想定区域に入っており、避難所の収容能力には限界があります。

このような状況では、市外の知人・親戚の所へ一時避難する（広域避難）、自宅が安全であれば2階へ避難する（垂直避難）等の選択肢も考えなければなりません。

また、避難する場所は決まっていても浸水してからでは行動ができません。一般に、浸水深が50cm(大人の膝程度)以上あると、避難することは困難です。

避難先、避難開始のタイミングは一人ひとり違います。あなたはどこへ、いつ、避難を開始しますか？平時から考えておく必要があります。

避難のイメージ図



引き続き市では、ハード、ソフトあらゆる面から災害を防ぐための努力を続けていきます。

しかし、突発的に発生する災害に対し、既存の防災設備、行政主導の対策のみでは災害は防ぎきれません。

内閣府の中央防災会議、防災対策実行会議によるワーキンググループでは、「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）」の中で、「国民の皆さんへ」として、右記のこと強く求めています。

〈国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～〉

- 自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- 気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
- 行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- 避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- 命を失わないために、災害に关心を持ってください。
 - あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
 - 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- 「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

上記は、今後大規模化するであろう災害から命を守るために一つの考え方です。

しかし、行政主導の避難対策の限界を目の当たりにし、一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しいという事実を突きつけられた今、このような考え方方が主流になっていくと考えられます。

大雨がもたらす災害とはどのようなものなのか考えてみましょう。

大雨により発生する被害とは(洪水・土砂災害)



洪水の種類

洪水には大きく分けて「内水氾濫」と「外水氾濫」があります。

内水氾濫

- 大雨により水没すること
- ・降った雨がそのまま溜まる。



- ・身近な小さな水路もあふれる
- ・40cmほどの水路でも、流され死亡した例があります。

外水氾濫

- 堤防が決壊、越流し浸水
- ・川の水が流れ込む



- ・水が一気に流れ込み、家屋を押し流す。
- ・今ここで雨が降っていなくても、川の上流で降っていると起こる可能性がある。

※一般に浸水深が50cm以上になるとほとんどの人が避難できません。

早めの避難が重要になってきます。

土砂災害とは

大雨などにより斜面が崩壊し、土砂や岩石、立木などが水と混ざって流れてくるものです。

発生の予想が難しく、家屋等に甚大な被害をもたらします。

土砂災害の前兆と種類

- ・がけに割れ目が見える。
- ・がけから水がわいてくる。
- ・がけから小石がパラパラと落ちてくる。

がけ崩れ



- ・急に川の流れが濁り流木が混ざっている。
- ・山鳴りがする。
- ・雨が降り続いているのに川の水位が下がる。

土石流



- ・沢や井戸の水が濁る。
- ・地面にひび割れができる。
- ・斜面から水が噴き出す。

地すべり



※これらの災害は突然起きてるので逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

また、**土砂災害の約3割は、危険区域に指定されていない場所で発生した**、というデータもあります。前兆を感じたらすぐに逃げましょう。

災害が発生するとどうなるか。
実際の写真を見てみましょう。

大雨により発生する被害とは(実際の写真)

●水害の例

排水溝の処理能力を超え
水があふれている
(平成 21 年 7 月中国九州豪雨)



決壊した鬼怒川付近の写真
(平成 27 年 9 月関東東北豪雨)



避難所、被災したまちの様子

避難所で過ごす被災した方々
(平成 19 年中越沖地震)



災害対策本部の様子
(平成 21 年 7 月中国九州豪雨)



●土砂災害の例

山口県防府市の土砂災害の現場
(平成 21 年 7 月中国九州豪雨)



※土砂災害の約 3 割は、警戒区域に指定されて
いない箇所で起きると言われています。

堆積した土砂と被害に遭った車両
(平成 21 年 7 月中国九州豪雨)



浸水被害により発生した
災害廃棄物
(平成 21 年 7 月中国九州豪雨)



門柱以外は倒壊した住宅と
災害廃棄物
(平成 30 年 7 月豪雨)

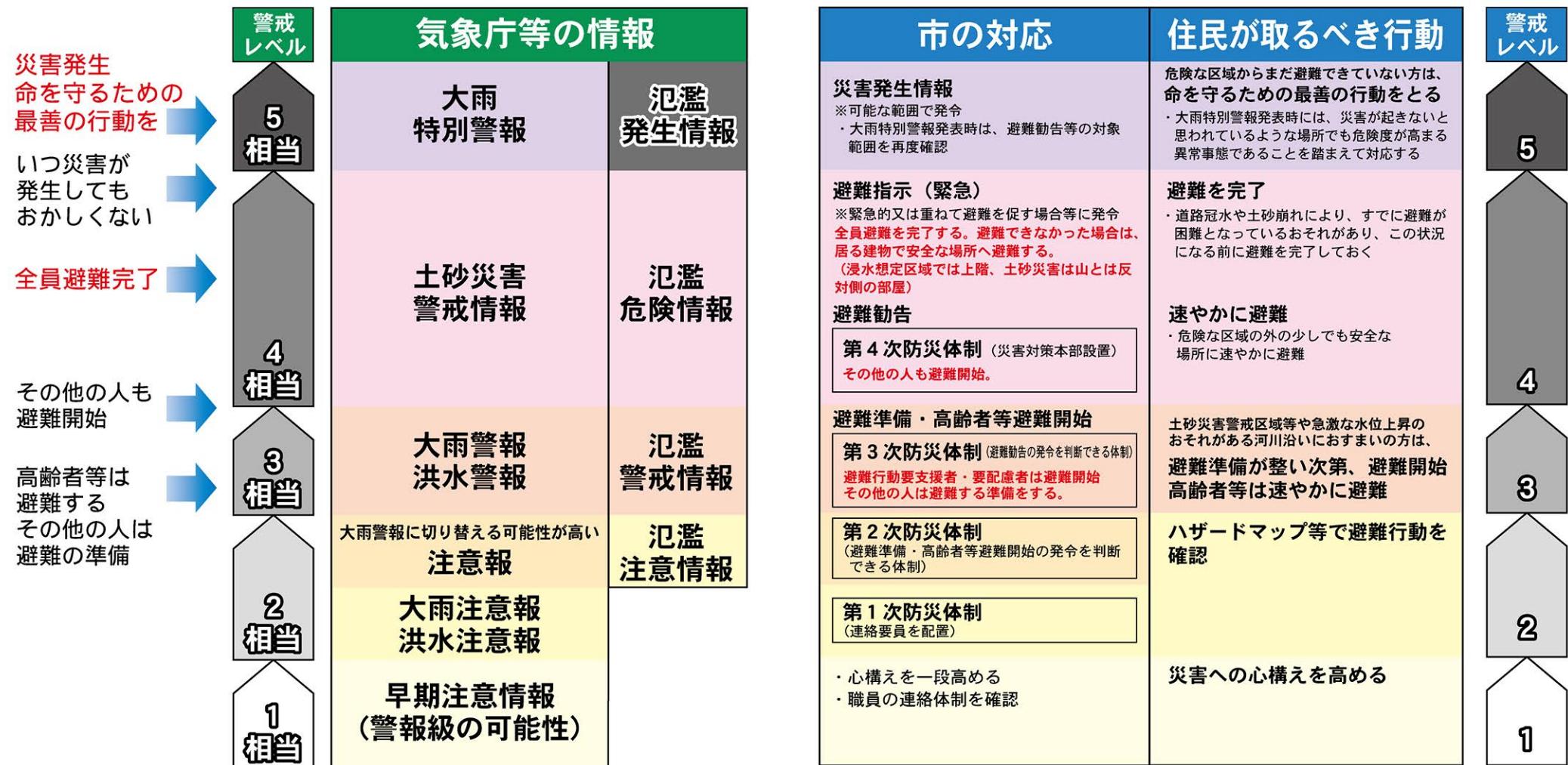


(写真出典：一般財団法人消防防災科学センター)

避難行動のタイミングはさまざまな情報をもとに考える
必要があります。最近は次のような表現が使われています。

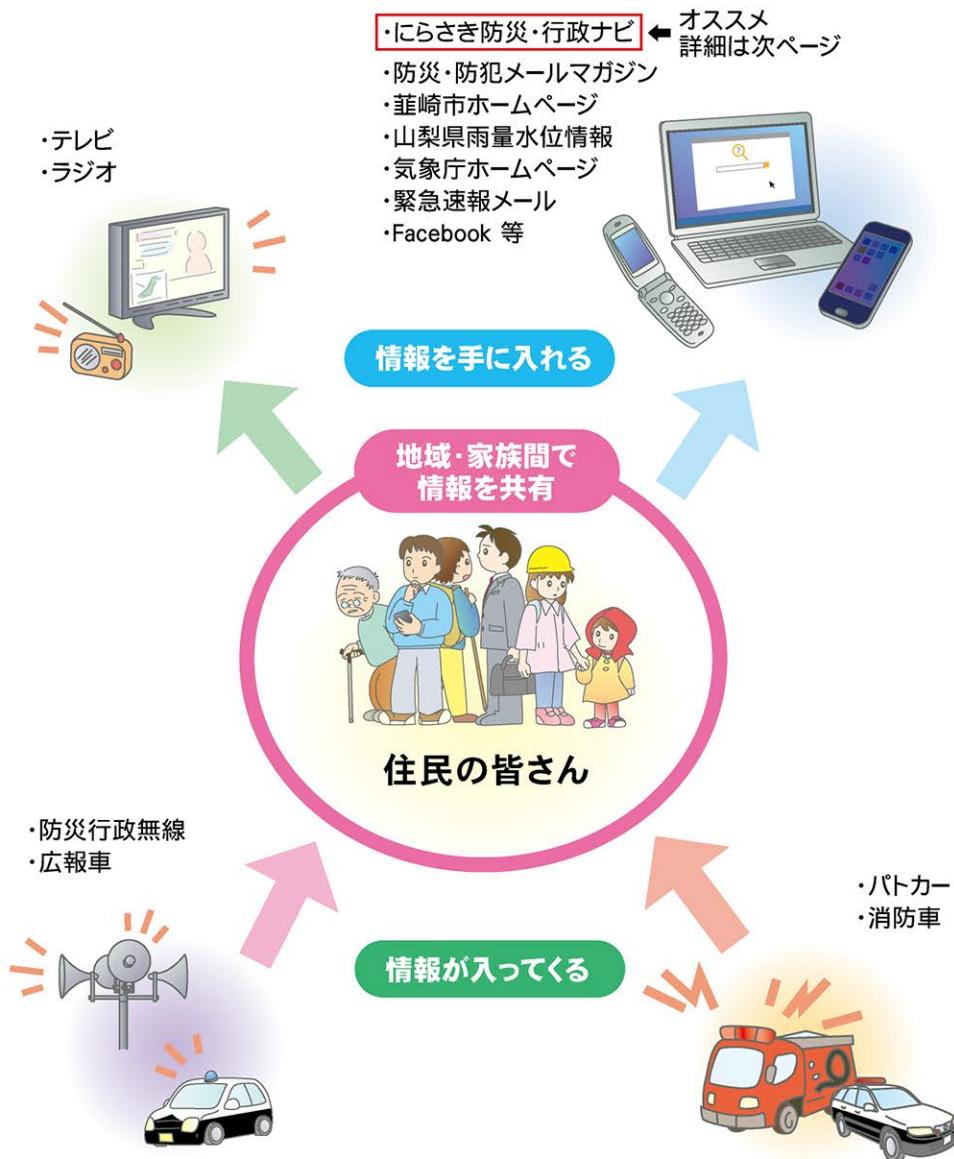
④5段階の警戒レベル(レベル5は被害が出ている状態です。避難はレベル4までに完了しましょう)

近ごろ耳にする機会の増えた「レベル〇〇」という言葉があります。
これは、洪水や土砂災害の危険を知らせる防災情報を直感的に理解できるように設定されたものです。



この他にも精度の高い情報を得ることが避難行動を考えるうえで重要です。情報収集の手段を考えましょう。

情報を入手しましょう(受け身ではなく、いかに入手し、いかに判断するか)



命を守るために行動には
早めの避難が重要
そのためにも正確な情報を素早く
手に入れることを心がけましょう

● 莩崎市公式アプリ「にらさき防災・行政ナビ」

災害時には、避難所の開設状況確認や、避難所までのルート案内ができます。
また、防災行政無線の内容をいつでもどこでも確認できます。

暴風雨の中では防災行政無線が聞こえないこともあります。
聞き逃しの防止にも有効です。

防災・行政ナビチラシ

こちらからダウンロード
できます



android版



iOS版

または、アプリストアで
「ライフビジョン」を
検索



観光情報や、広報も見られるため、災害時のみならず、普段使いでも役に立つアプリです。

どのタイミングでどんな情報が役に立つか？
流れと共に情報の入手先を紹介します。

タイミング別の情報入手先

● 台風が発生したら

台風の大きさや強さ、今後の進路や暴風域等を確認しましょう。

気象庁ホームページ
<http://www.jma.go.jp/jp/typh/>

気象庁ホームページでは雨雲の動きや、今後の降雨予想の他、各種防災情報が確認できます。



● 雨が降ってきたら

雨量観測所のリアルタイム情報や、レーダー雨量等で、今後の雨の見通しを確認しましょう。

甲府河川国道事務所ホームページ
http://www.ktr.mlit.go.jp/koufu/koufu_index001.html

山梨県内の道路、川の水位のライブカメラ映像が見られます。



川の防災情報ホームページ
<http://www.river.go.jp/>

気象情報と水害・土砂災害情報をマルチ画面で確認できます。



山梨県総合河川情報システム
<http://www3.pref.yamanashi.jp/yamanashiweb>

河川断面図と現在の水位で、水がどこまで来ているか確認しましょう。



● 土砂災害の危険度情報を確認しましょう

山梨県土砂災害警戒情報システム(PC版)

<http://www3.pref.yamanashi.jp/dosya/warninfo.html>

スマートフォン版



危険度の予測や、現在の危険度が
メッシュ地図で見られます。
詳細な危険度を把握しましょう。

● 荘崎市からの情報もチェックしましょう

莊崎市ホームページ
<http://www.city.nirasaki.lg.jp>



避難所の開設状況や、危険箇所の情報等をお伝えします。

防災・防犯メールマガジン



右のQRコードから空メールを送信し、案内に従って登録してください。

※さまざまな情報、雨や河川の状況から判断し、**身の危険を感じたときは、自ら早めに安全な場所に避難してください。**

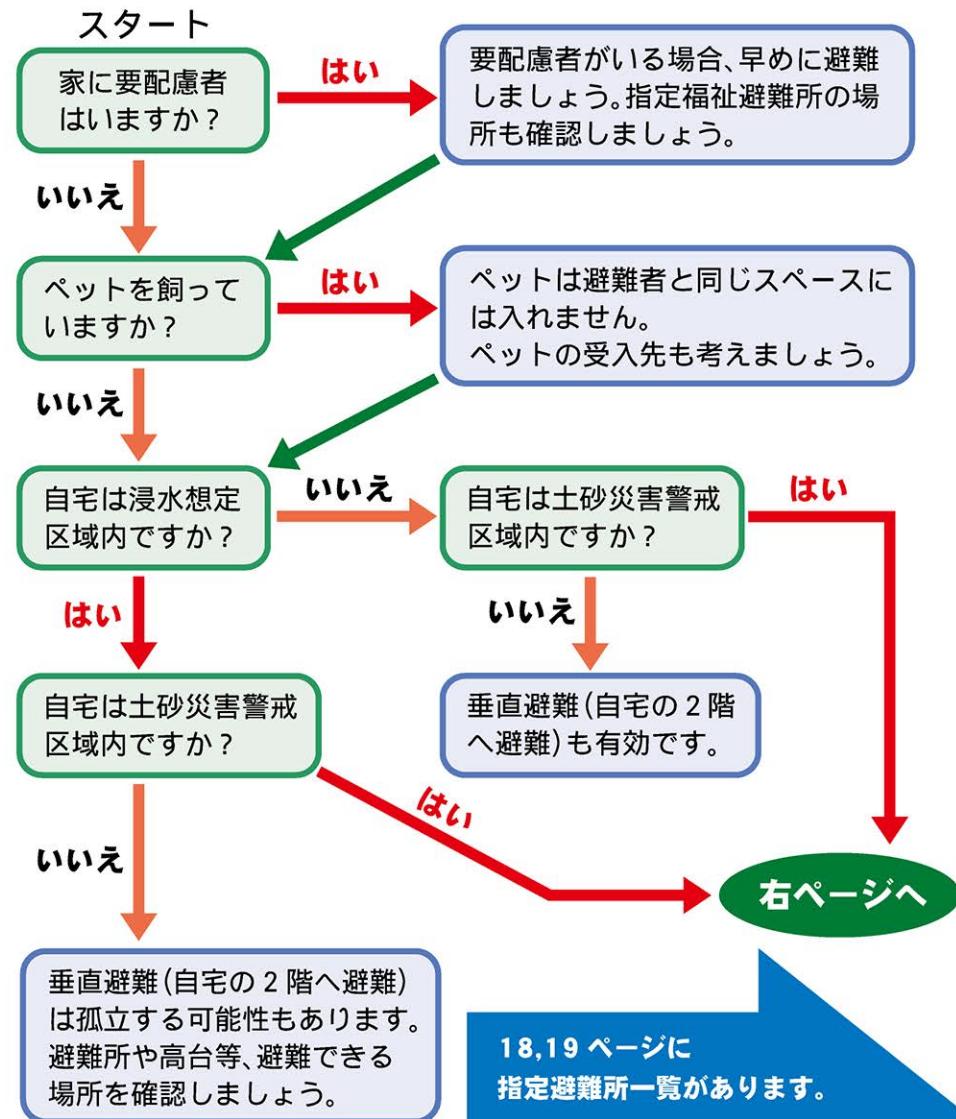
普段から**「こういう時はこうしよう」という話をしておく**ことが、自分や家族の身を守ることにつながります。

情報を得た後は、自宅の危険度をチェックしてみましょう。
家の場所や、家族構成などによって避難行動は変わってきます。

自宅の危険度、避難先を考える(自宅が安全なら、必ずしも避難所へ行く必要はありません)

冒頭でもお話しした通り、令和元年度版ハザードマップでは浸水想定区域に入っている指定避難所があります。市では避難所の見直しを進めていますが、新しい指定避難所が決まるまで、災害は待ってくれません。

市外の親戚・知人の家等、安全な場所を探すことも視野に入れ、避難先を考える必要があります。



左ページから

まず次ページで、地区的指定避難所を確認しましょう。

次ページに
指定避難所一覧があります。

指定避難所は水色に塗られていますか？

はい

指定避難所へ避難しましょう。
浸水してからの避難は非常に危険です。早めに避難しましょう。

指定避難所は浸水想定区域に入っています。市外の親戚・知人の家等、安全な場所を平時から考えておきましょう。短期的な避難であれば、指定避難所にこだわらず、安全な場所へ避難しましょう。



次ページに令和元年12月現在の指定避難所の一覧がありますが、浸水想定区域に入っている箇所があります。

指定避難所は、一時・長期の避難所や物資運搬の拠点として開設されますが、浸水が想定されている箇所は、利用の可否を開設状況等で判断するしかありません。

特に水害の場合、比較的短時間で状況が変化しますので、避難所として利用するには十分な注意が必要であり、場合によっては使えないことも考えられます。

浸水想定区域内の避難所は、開設情報に十分注意してください。

④ 地域防災計画に定める指定避難所(洪水・土砂災害)

● 指定福祉避難所

番号	避難所名称	避難所住所
1	老人福祉センター	大草町若尾 1680
2	大草デイサービスセンター こぶし荘	大草町若尾 1680
3	穴山デイサービスセンター なごみの郷	穴山町 4411

次ページでは、情報収集や避難開始のタイミングを考えてみましょう。
いざというとき行動できるよう平時から考えましょう。

※  で塗られている避難所は浸水想定区域内です。洪水時は開設されない場合があります。

※ 浸水被害の恐れがある場合、状況に応じて避難所の2階へ移動することもあります。

※ 短期的に避難する際は、対象地区にこだわらず安全と思われる避難所に避難してください。

※ 避難が長期になる場合は、対象地区の避難所をご利用ください。

● 指定避難所(令和2年4月以降見直しが予定されています)

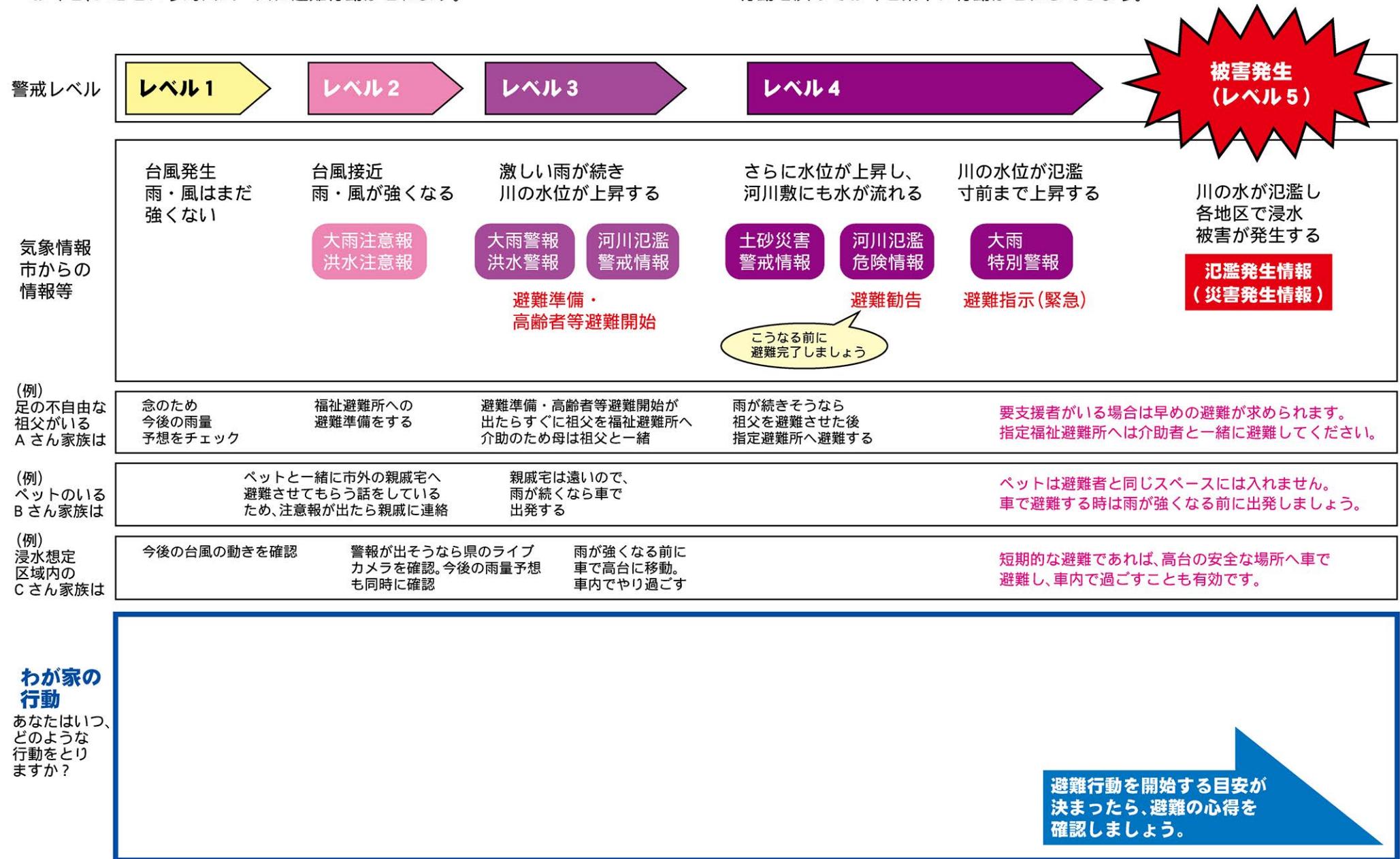
※ この一覧は令和元年12月現在のものです。隨時見直されますので、常に最新の情報を確認するよう注意してください。

番号	避難所名称	避難所住所	対象地区
1	韮崎小学校	本町二丁目 2-41	五丁目、下宿、中宿、二丁目、旭町、天神町、日の出町、富士見一・二・三丁目、高河原
	韮崎児童センター	本町二丁目 1-7	
2	韮崎高等学校	若宮三丁目 2-1	一丁目、水神町、若宮町、西町、中島町、富士見ヶ丘、岩下、上ノ山
	祖母石公民館	下祖母石 370	
3	穂坂小学校	穂坂町宮久保 6121	宮久保、鳥の小池、三ツ沢、柳平、上今井、長久保、原
4	穂坂公民館(コミュニティセンター)	穂坂町宮久保 6196-1	飯米場
5	勤労青年センター	穂坂町宮久保 5136-2	上の原、権現沢、日之城、三之蔵、岩下岩根
6	韮崎市健康ふれあいセンター	中田町中條 1800-1	中條二区、小田川五・六区
7	中田公民館	中田町中條 490-1	中條三区
8	穴山公民館	穴山町 4487-1	重久
9	韮崎北東小学校	藤井町駒井 1912	駒井、鳥居、中條一・四区、石水、伊藤窪、夏目、次第窪、久保
	北東児童センター	藤井町駒井 2248-1	
10	東京エレクトロン韮崎文化ホール	藤井町坂井 205	絵見堂、上野、坂井、北下條、道下、市営北下條団地
11	韮崎東中学校	藤井町南下條 371	南下條、相堀、蔵の前、サンコーポラス藤井、県営韮崎穂坂団地
12	清哲公民館	清哲町青木 2309-1	中谷
13	北西児童センター	清哲町青木 1078-1	上円井、下円井、宇波円井、入戸野、折居、青木上、青木下、おりい台、三ツ石組、市営円野住宅
	韮崎北西小学校	清哲町青木 193-1	
14	韮崎西中学校	神山町鍋山 1-1	御杉、北宮地、武田、鍋山、御堂、北原、旭団地、鎧物師屋、県営・市営若尾団地、北宮地西中北
15	旭屋内運動場	旭町上條北割 3879-1	宮下、小曾根
16	みだい体育センター	旭町上條南割 3251-1	山寺、竹の内、久保、湯舟、県営旭団地
17	甘利小学校	大草町上條東割 821-1	鍛冶屋、すずらん団地、羽根、西の割、羽根堤南、山口
18	大草公民館	大草町上條東割 788	町屋
	甘利児童センター	大草町上條東割 788	
19	韮崎工業高校	龍岡町若尾新田 50-1	若尾、若尾新田、坂の上、サンコーポラス竜岡、若尾東田住宅
20	竜岡公民館	龍岡町下條南割 1007	石宮、竜岡サンステージ、真葛、越道、みだいスカイタウン
	竜岡体育館	龍岡町下條南割 1007	

④避難行動マイタイムライン(どのタイミングでどんな行動をとるか?)

豪雨が予想される時、どのタイミングでどんな行動をとるかあらかじめ決めておくと、いざという時スムーズに避難行動がとれます。

人は慌てると冷静に行動できなくなるものです。平時の内に、いざという時の行動を決めておくと素早い行動がとれるでしょう。



④避難時の心得(避難に先立ち押さえておきたいポイント)

●正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の状況や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

最近の雨は、長時間大量に降る傾向があります。

今までの経験的判断が通用しなくなっています。

※避難の際、必要な持出し品は持参しましょう



●避難の呼びかけに注意

危険がせまつたときには、防災行政無線、緊急速報メール、広報車などにより、避難の呼びかけを行います。呼びかけがあった場合は、速やかに避難してください。

防災無線の聞き逃し防止に
にらさき防災・行政ナビを!
(インストールはこちら)



android版



iOS版



●車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなるため、早めに行動しましょう。

車の水没により、
被災することもあります。
車で避難する場合は
雨が強くなる前に、
早めに行動しましょう。



●要配慮者の避難にご協力を

高齢者・障がい者・病気やけがをしている方など要配慮者は早めの避難が必要です。近所にお住まいの方は要配慮者の避難にご協力ください。

要配慮者の避難には、
地域のサポート(共助)が
不可欠です。
行政も全力でサポートします。



●動きやすい格好、二人以上での避難

避難するときは、お隣やご近所と声を掛け合って必ず二人以上で避難しましょう。また、道路が冠水している場合、道路の状況が確認できないため、杖などで安全を確認しながら歩きましょう。なお、大雨により、マンホールのふたが外れることがあります。危険ですから近寄らないでください。

長靴は水や泥の中でも快適に歩けますが、水が入ってしまうと重くなり動きづらくなります。



●避難場所を決めておこう

日頃からどこが危険か、避難場所はどこか、確認しておきましょう。外出する際には、かけ地に近づかないようにしましょう。

家族がバラバラの場所から避難する場合の、連絡方法や、待ち合わせ場所を決めましょう。日頃から家族、近所、地域で話をすることで、被災リスクを下げられます。



④一日前プロジェクト～災害の一日前に戻るとしたら、あなたは何をしますか～

内閣府、防災情報のホームページに「一日前プロジェクト」というコンテンツがあります。

「災害の一日前に戻るとしたら、あなたは何をしますか」と、被災された方に問い合わせ、様々な体験談をまとめたものです。その中からいくつかのエピソードをご紹介します。

何か感じることがあれば、すぐにでも行動に移してみてください。また、ご家族などこれらのエピソードを基に、「自分だったらどうするか」など意見を交換することも、災害への気づきを呼び起こすうえで有効です。

まるで地獄の使者のよう ～木、岩、砂が家に「バリバリッ」～

平成21年7月中国・九州北部豪雨（防府市 50代 男性）

地獄の使者のテーマソングのような、地面からゴーっとわき上がってくるような音がしました。その音が上方からだんだんこちらに近づいてくるような感じがして、両ひざ立ちで窓の外を見ると、30メートルぐらい先に土石流が迫っていました。横倒しになった木と無数の岩、それに大量の砂がどんどん押し寄せてきました。

「うわ、家を直撃だ！」と、思わず後ずさりしたとたん、何かがドーンと家に当たり、バリバリッという音がして、すぐに腰まで水に浸かってしまいました。割れた窓ガラスが勢いよく水と一緒に僕の体のほうへ攻めてきたので、足が切れ、水が血で真っ赤に染まりました。



逃げるためにはどうしたらいいかなと考え、「あっ、そうか、靴を履けばいいんだ」ということでね。裏返しになってスーっと流れてきた片方の靴をはき、倒れたソファーやイスなんかの上を歩いて行くと、もう片方の靴が浮いていました。水をかいてたぐり寄せ、それを履いて、一番近い出口から逃げようと思ったけど、サッシが曲がって開かないんです。

で、土石が入ってきた玄関のほうから脱出したのですが、玄関の前は4、5メートル掘られて川のようになり、ゴーゴーと水が音をたてて流れています。結局、建てて間もない我が家に、再び帰ることはできなくなりました。

早かったですよ、水がきてからは ～たった一時間で自宅が水没～

平成16年7月新潟・福島豪雨（三条市 40代 女性）

テレビで、あの辺の川がはんらんしそうですか、三条市は大雨で大変ですみたいのを見ていたんだけど、うちのところに水が来るなんてことは、全然想像できませんでした。主人もお昼頃、うちに戻ってくるわけですよ、車に乗って。タイヤがかぶるくらいの水の中を、「職場の人が、何かあるといけないからと、お茶のペットボトルとかップラーメンくれたぞ」とか言って帰って来て、車を車庫にきっちり入れました。

で、「やあね、こんな雨」とか言いながら過ごしていて、家族全員がうちにいたわけですよ。家はちょっと道路よりも上にあるので、玄関にももし水が来たら嫌だからと言って、子供の野球用品とか大事なやつを玄関の上に上げただけでした。



それが午後2時ごろ、ワーッと水が来たのが午後3時か3時半ごろでした。うちの中に水が入って来たんです。早かったですよ、水が来てからは、1時間くらいで1階がすべて水につかってしました。

薬持ち出せず、避難所で大弱り ～自分の薬は肌身はなさず～

平成19年能登半島地震（輪島市 60代 女性）

年寄りの人たちがたくさんおるでしょう。避難所に行って感じたのは、お年寄りはみんな常にお薬を飲んでいますから、どんなときも自分の薬は肌身はなさず持つていなければいけないなということです。

夜中の2時ごろ、おばあさんが避難所のすみでちよこんと座っていたので、わけを聞くと、「リュウマチで痛くて眠られん」と言うのです。で、連絡すると、すぐにお医者さんが看護婦さんと一緒に来てくれたんです。それにはほんとうに頭が下がりましたね。



先生が「これを飲んで」と痛み止めの薬を渡していると、それを見て「私にも薬をください」と言う人がいっぱいいました。引き出しに置いていたから、とっさに持つてこられなかつたという人が多かったです。だから、前もって何かに分けておいて、いつでも持つて逃げられるようにしておかなければいけないとつくづく思いました。

避難所は恵まれた場所とは限らない ～まず各家庭で、備えをしておこう～

平成17年台風第14号（杉並区 40代 男性）

小学校を避難所にするということに決めて、防災倉庫を見に行ったとき、まず「足りるかな」と思ったんです。初めてのことでのことで、何人来るかわからなかったから。

毛布も一部は置いてあるんですが、ほとんどは川の向こう側にある災害備蓄倉庫があるので、このまま雨が降り続いたら、実際どうやって取りに行こうかと思っていました。



学校の体育館と言えば、夏は暑く、冬は寒いというところですから、避難所に行けば安心できるかというと、**気持ち的にはみんな一緒に心強いという感じはあっても、物質的には決して恵まれている状況ではないんですよ。**

それをみんながちゃんとわかってくれていない。前もって、自分たちの家で備えておかなければならぬこと、それから、こうなったときには自分たちはこういうふうな対処をするんだという心構えというものを各家で決めておいてもらわないと、いざという時にパニックになっちゃって、受け入れるほうも受け入れられないという状態になっちゃうのです。そういう認識をまず各家庭で持っていないといけないですね。

「今まで大丈夫だったから」は危ない

平成16年台風第23号（徳島市 60代 男性）

ずっと昔、我々がちょうど小学校2、3年生のころに、今回と同じ川の堤防が決壊して、軒下まで水が来たんです。そのときに大きな被害を受けたので、地区の人たちの台風に対する備えや考え方方は十分にできていたと思いますが、「40年以上たったから、もう心配ない」というのがどこかにあったのではないかでしょうか。



平成16年は台風が特に多かった年で、5回台風が来てもなんとかなっていたものだから、6回目の台風23号の時には、「避難しろ」と言っても、なかなか言うことを聞かなかったということなんですよ。

それで大変な被害を受けたものだから、あれから、台風がくるといえば、みんな、車とかを高いところに上げています。それがいつか、「上げたけど心配なかった」になり、「もう上げなくてもいい」というようになって、危機感がだんだん薄れいかなければいいのですが。今回の水害で、「災害は忘れたころにやってくる」ことを実感しました。

前もって避難の方向を決めていた ～山崩れに迷わず避難、命助かる～

平成21年7月中国・九州北部豪雨（宇部市 40代 男性 行政職員）

あるお宅の話なのですが、ご夫婦でお住まいでお昼ごろお膳にご飯とおかずを並べて、「さあ、ご飯食べよう」と言っていたら、山の方で音がしたんですね、ゴーンゴゴーって。「あれ？ 何でなんだろう？」と思って見たら、まさに山が崩れてきていて、土石流がダーッと押し寄せてきていました。



で、「こりやいけん」と思って、ご主人はステテコとランニング一枚だったんですけど、パッとシャツをつかんで、奥さんと一緒に道の無い裏山に逃げ込んだんですよ。「何でそっちに逃げたんですか」と聞いたら、「家を建てた時に、何かあったらどこに逃げるか？ ひとつは裏山もあるな」とご夫婦で話し合っていたとのこと。

道ばたに車を置いていましたが、そこは土石流の流れる方向にありました。もし道の方に逃げていたら、絶対命はなかったと思いますよ。

今自分がどんなところに住んでいて、どういう危険性があるのか、過去に地域でどんなことがあったのかなどをそれぞれが学んでおけば、そのために何を備えるか、どこに逃げるのかを具体的に考えていくことができますよね。**大切なのは、具体的に考えることと自分の身は自分で守るという姿勢**だと思います。

※エピソード、イラストは内閣府ホームページより抜粋しました
(<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>)

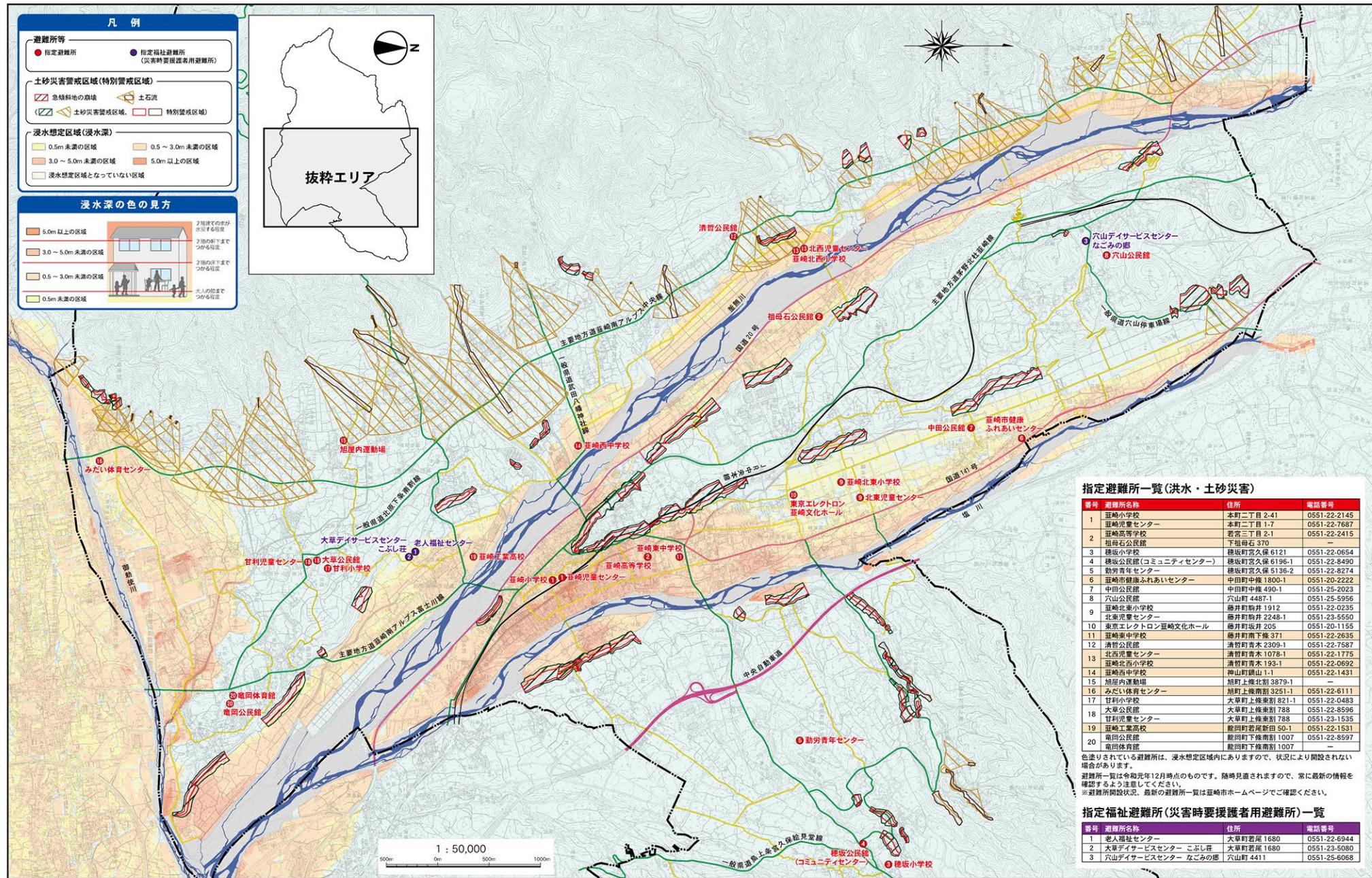
内閣府、一日前プロジェクトのホームページには、この他にも多数のエピソードが掲載されています。

多くの皆さんは、災害体験・被災経験をお持ちではないでしょう。だからこそ、実際に被災された方々の体験談から何かを感じ取り自分の身を守る行動について考えることも、非常に重要です。

ひょっとしたら今あなたは、被災してしまった未来から、被災する一日前に戻ってきているのかもしれません。

自分の命を守るために、さっそく考えてみませんか？

浸水想定区域(市内全域)抜粋・縮小版



このハンドブックは、ハザードマップとセットで保管し活用してください

お問い合わせ

韮崎市役所 建設課 管理・住宅担当

山梨県韮崎市水神一丁目3番1号

TEL:0551-22-1111(内線246,247,257)

制作:国土地図株式会社

令和2年3月発行